

## 特別研修終了届兼報告書

学院長 殿

所 属 文学部 英語英米文学科

職 位 教授

報告者 富樫剛

私は、2020年度大学教員特別研修員として学外研究に就いておりましたが、以下のとおり終了いたしました。

つきましては、「フェリス女学院大学教員特別研修制度に関する規程」（2000年5月22日制定）第11条第2項の規定に基づき、研修成果に関する報告書を提出いたします。

### 1. 研修テーマ・研修先等

研修テーマ	イギリス詩研究
研修先 (国・都市・研究機関等)	日本 (本学 個人研究室)
研修先指導者 (不在の場合は記入不要)	
研修先及び指導者 選定理由	研究室資料使用のため (コロナ禍にて選択の余地なし)

### 2. 研修日程

日程	渡航先・滞在地	研究機関名	備考
4月1日 ～ 3月31日		フェリス女学院大学	
月 日 ～ 月 日			
月 日 ～ 月 日			
月 日 ～ 月 日			

### 3. 研修報告

#### (1) 実施概要：研修内容 (具体的に記載)

当初の予定では、「16-17世紀イギリス詩・政治・宗教の研究：ギリシャ・ローマ古典およびイタリア・フランスのルネサンス詩の翻訳・翻案について」という課題の下、ここ10年ほどのあいだに学会で発表してきた「カルペ・ディエム」詩に関する研究成果を単著にまとめるつもりであった。しかし、下記三種の仕事の機会をいただいたので予定を変え、古典・大陸ルネサンス的思想とともにその対立項としてのキリスト教思想・信仰を扱う研究をおこなった。また、これらの仕事においてラテン語文献の読解・理解が必要であったので、ラテン語の (これまで以上の) 習得にも多くの時間をあてた (下の「成果」・「成果物」欄のiv参照。)

#### 4-6 月

古代から宗教改革期にかけてなされてきた聖餐をめぐる議論を概観し、これについてジョン・ダンのソネット「わたしの顔に唾を吐け」がどのような立場を示しているかを考察した（下の「成果」・「成果物」欄の i）。対象とした資料例は以下のとおりである。

St Ambrose. *On the Mysteries*. Tr. T. Thompson. Ed. J. H. Srawley. London: Macmillan, 1919.

St Augustine. *Opera Omnia*. Vol. 9. Ed. J. P. Migne. Paris, 1865. Patrologiae Latina 43. *The Boke of Common Praier*. London, 1552. STC 16284.5

Calvin, Jean. *The Institution of Christian Religion*. Tr. Thomas Norton. London, 1599. STC 4423.

*The Canons and Decrees of the Council of Trent*. Tr. Theodore Alois Buckley. London, 1851.

Denzinger, Henrici. *Enchiridion Symbolorum*. Barcelona: Herder, 1957.

*The Dysclosyng of the Canon of the Popysh Masse, with a Sermon Annexed unto It of the Famous Clerke of Worthy Memorye, D. Marten Luther*. N.p., [1548]. STC 17626.

Foxe, John. *Actes and Monuments of These Latter and Perillous Dayes*. London, 1563. STC 11222.

LaNave, Gregory F, et al., eds. *The Father of the Church: Medieval Continuation*. Tr. Mark G. Vaillancourt. Washington, D. C.: Catholic U of America P, 2009.

Paschasius Radbertus. *Opera Omnia*. Ed. J. P. Migne. Paris, 1852. Patrologiae Latina 120.

Puente, Luis de la. *Meditations vpon the Mysteries of Ovr Holie Faith with the Practise of Mental Prayer Touching the Same*. Tr. Iohn Heigham. Vol. 2. S. Omers [Saint-Omer], 1619. STC 20486.

Ratramnus Corbeiensis. *Opera Omnia*. Ed. J. P. Migne. Paris, 1852. Patrologiae Latina 121.

*The Sarum Missal*. Ed. J. Wickham Legg. Oxford: Clarendon, 1916.

#### 7-10 月

2017 年頃から『キリスト教大事典』（教文館）の改訂準備に関係し、イギリス詩関係項目の執筆者を紹介・調整していたが、諸事情のため 2020 年度に再調整をおこない、また古英語期から 21 世紀までを概観する「英文学とキリスト教」など私自身の担当項を完成させた（下の「成果」・「成果物」欄の ii）。以下のような資料を、元来専門とする時代・ジャンル以外の理解のために使用した。

McGrath, Alister E. *Christian Literature: An Anthology*. Oxford: Blackwell, 2001.

North, Richard, Joe Allard, and Patricia Gillies, eds. *The Longman Anthology of Old English, Old Icelandic and Anglo-Norman Literatures*. Harlow: Longman, 2011.

Pullman, Philip. *His Dark Materials*. Bks. 1-3. London: Scholastic, 1995-2000.

#### 11-3 月

所属学会である日本ミルトン協会が企画している論集『ミルトン研究案内（仮）』の編集委員長として、企画書作成・執筆者決定・執筆要領作成・出版社選定などの事務作業を進めるとともに、「ミルトンと 17 世紀詩人たち」など私自身の担当章執筆のための研究にとりくんだ（下の「成果」・「成果物」欄の iii）。使用した資料例は以下のとおり。

Pullman, Philip. *His Dark Materials*. Bks. 1-3. London: Scholastic, 1995-2000.

Aphthonius. *Aphthonii Progymnasmata*. Amsterdam, 1645.

Campion, Thomas. *Poemata*. London, 1595. STC 4544.

Lily, William. *The Short Introduction of Grammar*. London, 1641. Wing L2274G.

McFarlane, I. D., ed. *Renaissance Latin Poetry*. Manchester: Manchester UP, 1980.

Nichols, Fred J., ed. *An Anthology of Neo-Latin Poetry*. New Haven: Yale UP, 1979.

Perosa, Alessandro, and John Sparrow, ed. *Renaissance Latin Verse*. London: Duckworth, 1979.

Propertius. *The Poems*. Tr. Guy Lee. Oxford: Oxford UP, 1999.

Tibullus. *Elegies*. Tr. A. M. Juster. 2012. Oxford: Oxford UP, 2013.

## (2) 研修成果及び今後の進展の見込み

i. 古代教父たち以来のカトリック思想における「実体変化」とこれを否定する改革派思想のせめぎあいがあるジョン・ダンのソネット「わたしの顔に唾を吐け」に見られることを示す論文（下の「成果物」欄 i）を作成した。この詩に見るべきは、カトリックとして生まれ育つも改宗してイングランド国教会の聖職者となったダンの立場の微妙さ、および巧みに覆い隠しつつ堅持・主張されているカトリック思想である。

ii. 『キリスト教大事典』（教文館）改訂版のため、イングランド文学全般およびジョン・ミルトン、ジョン・バニヤンに関する項を執筆した（下の「成果物」欄 ii）。特に「英文学とキリスト教」の項においては、『創世記 A・B』など、アダムとイヴやサタンを扱う古英語詩から現代のファンタジー小説に至るまで、敬虔なもののみならず、不敬ながらも逆説的に深い宗教的関心を示す作品をも含めたイングランド文学像を提示した。

iii. 日本ミルトン協会編『ミルトン研究案内（仮）』の出版企画を立ち上げ、刊行までの道筋を整え、かつ「17 世紀イギリス」など私自身の担当章のための研究をおこなった。特に（すでにほぼ完成している）「ミルトンと 17 世紀の詩人たち」の章においては、17 世紀におけるソネットの衰退・変形、古典・大陸ルネサンスのエレギア詩の影響、ホラティウスのオードの流行など、従来ふれられてこなかった文脈の下でミルトン作品の再評価をおこなった。

iv. 以上に加え、ラテン語習得のためにポンタノ、サンナザロ、セクンドゥスら 15-16 世紀の大陸の詩人によるネオラテン詩（特にエレギア詩）の読解を進め、その日本語訳を作成した。日本でも英米でもほとんど研究されてきていないが、これらの作品は、ローマの古典恋愛詩と 16-17 世紀のルネサンス詩の中継点として文学史的に極めて重要であることがわかった。この知見は、今回中断したカルペ・ディエム詩の研究にも今後大いに資するであろう。

## 4. 研修成果物

研修成果物(著書・学術論文・研究発表・演奏会等(予定も含む))の発表時期等

i. 「『わたしの顔に唾を吐け』にジョン・ダンが書いていないこと」 岩永弘人ほか編『緑の信管と緑の庭園』 音羽書房鶴見書店、2021 年 (pp. 282-96)。

ii. 「英文学とキリスト教」・「ミルトン、ジョン」・『失樂園』・「バニヤン、ジョン」・『天路歷程』『キリスト教大事典』（教文館、刊行時期未定）。

iii. 「17 世紀イギリス」・「ミルトンの生涯」・「ミルトンと 17 世紀の詩人たち」・「年表」 日本ミルトン協会編『ミルトン研究案内（仮）』（春風社、2022 年 [予定]）。

iv. *English Poetry in Japanese*. <<https://blog.goo.ne.jp/gtgsh>>. 2011 年～現在。

※教育・研究成果の公表を目的として、この報告書は大学ホームページ上に公表します。